

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院	職名	博士後期課程	助成金額	350 千円
氏名	日置 瑤子	印	hioki.yoko*st.kyoto-u.ac.jp (*に@)		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
クリストの初期コラージュにおける制作技法とその変遷に関する研究					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究は戦後を代表するクリスト（1935-）を主な対象とする。クリストは、日本に関係が深く、人と芸術を結びつけ、地域を活性化させている美術家である。本研究は、地域でのアートプロジェクトにおいて、クリストのコラージュ作品が担った役割に着目し、とりわけクリストが初期に制作したコラージュ作品を対象とし、クリストがキャリアの中後期に地域のアートプロジェクトのために制作したコラージュ作品、後世の美術家川俣 正（1953-）が制作したコラージュ作品などと比較検討しつつ分析することで、その制作技法と変遷を明らかにし、今後の持続可能な地域でのアートプロジェクトのあり方を考察するものにも貢献するものである。</p> <p>以上のことから、助成金の給付を受け、今では貴重書となっている初中期のクリストの個展とグループ展の図録の購入、関連書籍の購入、関係資料の収集、下記実地調査をおこなった。</p> <p>その結果、先行研究で触れられなかった資料やコラージュ作品を見つけることができ、当時の国内外のキュレーターや美術批評家におけるクリストのコラージュの受容も明らかにできた。こうして、作品分析と受容研究から、クリストのコラージュ作品は設計図の枠にとどまることはなく、自律した作品であり、大別して主に三つの特徴を有する独自のコラージュだと考察することができた。</p> <p>国内調査</p> <p>期間 8月26日</p> <p>調査地 東京、21_21 DESIGN SIGHT</p> <p>内容 視覚芸術と地域でのアートプロジェクトを扱う企画展を調査し、その結果、クリストのコラージュ作品と制作過程に関するクリストへのインタビュー、及び、同時代の作家による地域でのアートプロジェクトに関する新たな問題意識や説明など様々非常に重要で有益な情報を得た。</p> <p>期間 8月27日</p> <p>調査地 東京、Bank ART</p> <p>内容 川俣 正のコラージュ《Expand BankART Plan 5》並びにコラージュ《Expand BankART Plan 6》を実際に確認でき、画像資料を得た。</p> <p>本研究は、先行研究では論じられていなかったクリストの初期コラージュにおける制作技法と変遷を明らかにし、後世に与えた影響を考察するものであるとともに、今後日本の諸地域が人と芸術を結びつけるアートプロジェクトを継続的に形成していくときの問題を解決する有効な手引きとなると考えられる。今後の課題としては、初期コラージュ作品に関する考察を踏まえ、コラージュ作品と地域でのアートプロジェクトの関係をより明らかにさせ、近年のコラージュ作品まで対象に含めたより包括的なコラージュとアートプロジェクトの研究を必要とする。以上の調査に基づく成果は、以下に示す学術誌にて発表する予定である。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
日置 瑤子	クリストの初期コラージュに関する一考察 (仮)	『あいだ／生成』9号	平成 30 年 11 月投稿予定		